

ヨハネの黙示録 3 章 7-13 節

七つの教会への七つの手紙- (6)-フィラデルフィア

3:7 また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。

3:8 「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

3:9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。

3:10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。

3:11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。

3:12 勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。

3:13 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』

はじめに

3:13 「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」とあるように、この手紙の内容も、全てのイエス様の信者の為にあります。先週、御霊の言われる事を聞く耳について説明するため、サムエル第一 3:10を引用しました。

サムエル記第一「3:10 そのうちに【主】が来られ、そばに立って、これまでと同じように、「サムエル。サムエル」と呼ばれた。サムエルは、「お話してください。しもべは聞いております」と申し上げた。」

これを祈るのは簡単に見えますが、心からこう祈るという事は、しもべとして神様に服従するという意味です。そうすれば、御霊の言われる事を聞く耳が開かれます。

この手紙の内容は教会全体に適用されるだけでなく、個人的に一人一人の信者にも適用されます。この手紙は、イエス様の主権についての手紙であり、それはイエス様の自己紹介にある通りです。

1. イエス様の自己紹介 (7節)

黙示録3:7. 「また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。』

最初の部分はイエス様が神様として聖なる方であり真実な方であると言う事です。元々、「全く罪のない方」と「完全な」「真実である方」は聖書の中でいつも神様をさしています。イエス様は自分が神の子であると言い、その上に後半は「ダビデのかぎを持っている方、彼が開くと誰も閉じる者がなく、彼が閉じると誰も開く者がなく。」と言って、ご自分が神の子として天と地の全ての主権を持っておられる方であると自己紹介をしています。旧約聖書の御言葉を引用して自分について言うておられます。

イザヤ書22:22 「わたしはまた、ダビデの家のかぎを彼の肩に置く。彼が開くと、閉じる者はなく、彼が閉じると、開く者はない。」

この御言葉と同じイザヤ書9:6-7を合わせて見て考えるとその意味が分かります。

イザヤ書9:6-7 「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。

9:7 その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に着いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで。万軍の主の熱心がこれを成し遂げる。」

両方の箇所共通点があります。22:22にはダビデのかぎを彼の肩に置くと書いてあって、9:6には「主権はその肩にある。」と書いてあります。イエス様は旧約聖書の預言通りにイスラエルの元王様であるダビデの家系で、その子孫として、そして永遠に神の全ての主権を持っている方としてフィラデルフィアの教会にご自身を紹介しています。それで、イエス様が開くなら、誰も閉じる事が出来ないし、閉じると誰も開く事ができないのです。今日の手紙は先ず、イエス様の主権について書いてあります。

マタイ28:18-20 「28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

これはイエス様がこの地上で一番最後に自分の弟子達に語った言葉です。こう言って彼らの目の前で天に引き上げられてすべての王の王、主の主として神様の王座の右に座りました。先週に見ましたが、そこから天の王座の贈り物として御霊を自分の信者の一人一人に送り、神様の真理の御霊として、助け主として私たちといつも共にいてくださいます。

2. イエス様の励ましの言葉 (8-11節)

スミルナの教会と同じように、叱られる言葉がないので、七つの教会の中で叱られていない教会は二つだけです。

黙示録3:8. 「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」

少しの力しかないのに、イエス様は全能の力を働かせるのです。どんなに小さい信仰でも、辛子種ほどの信仰だけでも、不可能な事を実現させて下さいます。

先ずは励ましの言葉を通してどのようにして、全ての主権を彼らの為に使うかを学ぶ事が出来ます。

「見よ。私は、誰も閉じる事が出来ない門をあなたの前に開いておいた。」 何の門か具体的に書いていませんが、彼らの働きが前進出来る為に必要な門なので、その内に明らかになります。次は別の事例です。

使徒の働き16:7-10 「こうしてムシヤに面した所に来たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。16:8 それでムシヤを通過して、トロアスに下った。16:9 ある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。16:10 パウロがこの幻を見たとき、私たちはただちにマケドニヤに出かけることにした。神が私たちを招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。」

この続きを読めば、キリストの福音が初めてヨーロッパに入って前進して行く話だと分かります。楽なことではなく、棒やむちで撃たれて、投獄されて、震災に会いましたが、困難の中で守られて勝利に導かれました。

コリント第一16:9 「というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。」

これは別の場所ですが、エペソにいる時に、祝福されればされるほど反対する暗闇の力も邪魔しよとしますが、それは逆に祝福されて前進している証拠の一つなので、使徒パウロは怖がって逃げたのではなくてそこに残ると言っています。今日の手紙に戻って次のイエス様の励ましの言葉を見れば、それが分かります。イエス様は私達に敵対する者に対しても、主権を持って支配しています。黙示録3:9「見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」

ここでイエス様は七つの手紙の中で2回目となる「サタンの会衆」という表現を使っています。2章9節のスムルナの教会を励ます時にも、全く同じ表現を使いました。なぜなら、そこでも初代教会に敵対する者があり迫害されていたからです。それで、このイエス様の言葉の意味は「私はあなたの敵をあなたの足元に来てひれ伏させ、私はあなたを愛している事を知らせる。」ということです。今はユダヤ教ではなくイエス様の信者に敵対するすべてに対してこの真実がそのまま適用されます。聖書にある通り、神が味方であるなら誰が敵対出来るでしょう、と言う事です。

イザヤ 54：17「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、さばきの時、あなたを責めたてるどんな舌でも、あなたはそれを罪に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である。――主の御告げ。――」

この最後の部分の言葉を英語訳で確認したら、**vindication**と訳されています。つまり、神様は私達を義と認めて、正しい者として認めている上に、公に、私達の敵も含めて全ての前で公にそれを知らせると言う意味です。ですから、自分の正しさを人に対して訴える必要はないのです。イエス様が地上で生きていた時と同じように、不当な扱いを受けても、正しく裁く方である神様にお任せすることが出来ます。

イエス様の信者の本当の敵は人間ではなく、目に見えない暗闇の霊的な力ですが、イエス様の主権はそれを全て私達の為に支配して下さっています。

コロサイ人2：15「神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」

怖がる必要は全くありません。イエス様が完全に支配しています。敵はイエス様の許可なしに、全く動けません。励ましの言葉まだ続きます。

黙示録3:10. 「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」

彼らは特に信仰の強い信者ではありませんが、最低限の事だけを守っていました。「わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、」と言うのは信じ続けているということです。この箇所は日本語より、英語の訳の方が分かりやすいと思います。日本語では忍耐と訳されていますが、それだと英語では普通patienceと言います。ですがそのpatienceという言葉が弱すぎるので、ここの箇所の英訳はpersevereと訳されています。つまり、マラソンを走っている人のように最後まで諦めないで信じ続けると言う意味です。日常会話的に言えば、「粘り強く」です。私は日本のトレーニングジムの会長によく「肉体の粘り強さの為に、ねばねばしている納豆を食べればいい。」と言っていました。この信者達は信仰に於いて粘り強さがあるから、イエス様に褒められているのです。

その続きとして、試練の中でも、守りの約束が10節の最後の部分にあります。

3:10の一部には誤解しやすい翻訳があり、それを説明する必要があるでしょう。

「わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」 英語訳は「その試練から、あなたを守る」と翻訳されているのですが、日本語の訳のほうがいいです。「その試練の時には、あなたを守ろう。」です。

イエス様は自分の弟子達が試練を避けて通れるというような約束をどこにもしていません。試練には必ず会うが、全てを乗り越えて勝利に導く守りを約束しています。

ヨハネ16:33. 「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

どんな患難の中でも、キリストにあって平安を持って前進するのが勝利です。

この地上にいる間、イエス様によって「行き止まり」や「行き詰まり」が不可能な人生が約束されている上に、困難の中でも平安を持って勝利する事も約束されており、それを合わせて考える時、旧約聖書のエレミヤ書を思い起こします。

エレミヤ29：11「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。――主の御告げ。――それはわざわいではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」

イエス様によって実現される神の救いの計画をまとめている箇所です。全ての信者がこれを忘れないように暗記するのを勧めします。

3. イエス様の約束 (11-12節)

黙示録3:11「わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。」

今日の手紙は最初から、イエス様の主権を強調していますが、信者の責任を否定するまで、強調してはいません。先週のサルディスの手紙の最後に「勝利を得る者の名前を命の書から消すような事は決してしない」と書いてあって、その解釈について、つまり消される可能性があるかどうかについて、信者が分裂してしまう必要はないとお話しました。でも、どちらの解釈をしても、極端な解釈によって信者の責任を否定してはいけません。つまり、今は既に救われているから、何をしてもいいと言う極端な解釈は絶対にしてはいけません。聖書を読んで解釈する時いつも覚えておかなければならないのは、バランスの取れた解釈が必要だということです。つまり、一つの箇所について、他の箇所を否定するまでに極端な解釈を避けるというのがとても大切です。

黙示録3:12「勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。」

もちろん、神様の聖所と言うのは天国の意味です。そこで、イエス様は私達の上に神様の家族の一員として神様の名前と永遠に住む場所の名前、新しいエルサレムとイエス様と自分しか知らない名前も書いて下さるのです。

まとめ

テモテ第二 4:8. 「今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。」

色々な試練によって試されて証明されたこの本物の信仰は確信に溢れていました。この時は処刑に直面していた時でしたが、それでもこう書くことが出来ました。

テモテ第二 1：12「そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。」イエス様は私達に最初に小さい辛子種ほどの信仰を与えてくださいますが、このような信仰の創始者であり、完成者でもあるのです。